

第5学年 国語科学習指導案

は組 男子 19 名 女子 20 名 計 39 名

指導者 中野 晶 仁

1 単元 筆者の考えをとらえ、自分の考えを発表しよう

(教材「見立てる」「生き物は円柱形」光村 5 年)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに第4学年「段落のつながりに気をつけて読もう」の学習で、接続語や文末などを押さえて段落の要点を抜き出したり、まとまりごとに小見出しをつけたりしながら段落相互のつながりを考えて文章を読む能力を身に付けてきている。また、「材料の選び方を考えよう」の学習で、中心となる語や文から相互の関係を考えながら文章を正しく読もうとする態度を身に付けてきている。さらに、説明的文章に対して、筆者がどのようなことを読者に伝えたいのかを読み取り、それに対する自分の考えを表現したいという願いをもっている。

そこで、本単元では、目的に応じて因果関係から文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえる能力や、自分の考えを分かりやすく伝えようとする態度を身に付けさせたいと考え、単元「筆者の考えをとらえ、自分の考えを発表しよう」(教材「見立てる」「生き物は円柱形」)を設定した。

この学習は、筆者の意図を考えながら読んだり、筆者の主張を受けて自分の考えを明確にするために読もうとしたりする「文章と対話しながら読み、自分の考えをもとう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「見立てる」は、見立てるという行為が想像力に支えられており、その想像力は自然や生活と深く関わっているということを述べている説明文である。また、教材「生き物は円柱形」は、生き物が円柱形をしているという共通点から、その原因や円柱であることの利点などを述べており、因果関係や文末表現から筆者の主張がとらえやすい説明文である。「あや取り」や「生き物」などの身近なものが例としてあげられている両教材は、「はじめ」と「おわり」に述べられている筆者の主張に対する自分の考えをもちやすく、この期の子どもたちに適している。さらに、両教材とも、文章構成や指示語・繰り返し使われる言葉などから要旨をとらえるのに適した教材である。

そこで本単元では、文章の構成をつかみ、筆者が何を伝えたいのか読み取ったことを基に、自分の考えを発表することを目的とする。その際、まとめの部分だけに着目することのないように、事実と感想、異見を押さえながら要旨をとらえさせることで、筆者の考えに対する自分の考えをまとめさせていくことが大切であると考え。

具体的にはまず、理科の学習で共通体験して育てているエンドウやメダカの写真などから生き物の形に着目させた上で「生き物は円柱形」を読ませ、どうして円柱形がふさわしいのかという疑問をもたせ、単元への興味・関心を高める。そして、教材文を通読し、大まかに内容をとらえさせて上で「はじめて知ったこと」や「もっと知りたいこと」などを自由に話し合わせることにより、子どもたちに生き物について他の人にも知らせたいという思いをもたせ、単元の目標を設定させる。

次に、教材「見立てる」について、それぞれの段落の要点をつかんで、意味段落の内容をまとめさせ、全体の要旨をとらえさせる。その後、教材文「生き物は円柱形」についても同様に行わせる。その際、要点をとらえやすくするために、新聞形式にまとめさせる。そして、それぞれのまとまりで読み取った要点を基に、要旨をリード文としてまとめさせたり、コラム欄に自分の考えを書かせたりする。

さらに終末では、作成した新聞を基に自分の考えを紹介し合う活動を通して、自分との共通点や相違点に気付かせることで、学習の有用感や成就感を感じさせたり、本単元の学習が今後教科内や他教科等でどのように生かすことができるかを話し合ったりする活動を行わせる。

このような学習を通して得られる能力や態度は、事実と意見との関係を押さえて自分の考えを明確にしながら読んだり、文章全体の構成を考えながら表現しようとする態度へと結び付いていくものである。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習や教材に対してどのような興味・関心をもっているかについて調査した結果は、次のとおりである。(数字は人数を表す。)

①「生き物は円柱形」の初発の感想				③要旨の把握			
・生き物は円柱形であるということに驚いた (26)				・生き物はみな円柱形であるということ(20)			
・チョウや木の葉も円柱形とはじめて知った。(5)				・生き物は多様であること(9)			
・何でも円柱形ではないと思う。(4)				・動物には共通点が多いこと(5)			
・生き物の他の共通点も知りたい。(3)				・生き物はおもしろいということ(3)			
・筆者の考えはおもしろい。(1)				・生き物をおそれ、うやまい、感謝すること (2)			
②意味段落ごとの要点の把握(十分：◎―○―▲：不十分)				④本教材の他教科等との関連			
はじめ	◎ (2)	○(24)	▲ (13)	・理科(24) ・算数(12) ・道徳(2) ・総合(1)			
中1	◎ (0)	○(12)	▲(27)	⑤やりたいまとめ方 (複数回答)			
中2	◎ (2)	○(28)	▲(9)	・新聞(19) ・本の帯 (9) ・紙芝居(9)			
おわり	◎ (7)	○(26)	▲(6)	・報告書(6) ・ポスター(5) ・絵本(5)			
⑥難語句							
・多様 (11) ・翅脈 (10) ・独自性 (8) ・円柱形 (6) ・うやまう (5) ・葉脈 (4) ・角柱 (4)							

多くの子どもたちが、教材文の生き物が円柱形であるということに関心をもっている。しかし、現段階では、筆者の主張の例としてあげられている「円柱形」という形についての感想が多く、筆者の主張に対する感想を述べている子どもは少ない。(①) これは、要旨をとらえたり、それに対する考えをもったりする学習の経験が少ないためであると考え。意味段落の要点の把握については、十分把握できている児童は少ない。(②) これは本教材を一読しただけでは十分に内容を把握できなかったためであると考え。また、要旨としてあげられているものは、筆者が伝えたいことを述べるための例として挙げている「円柱形」をそのままとらえている子どもが多い。(③) 意味段落の内容の要点の把握がしっかりできておらず、そのため要旨についても漠然としており、筆者からの投げかけに気付かなかったことや、因果関係などをまだ理解できていないためであると考え。

また、本教材は理科や算数の学習と関連があると感じている児童が多い。(④) このことは「生き物」や「円柱形」という言葉から連想されたものであると考え。また、「生き物」の方が人数が多いのは、「円柱形」がまだ未履修であるためであり、子どもたちの経験と結びつかなかったためであると考え。まとめ方については「新聞作り」を挙げている子どもが多い。(⑤) これは、これまでの学習から、新聞作りを行うことが本の帯やポスターなどと比較して、説明的文章を読んでまとめる際に、文章構造をとらえたり要点を把握したりすることに便利であることに気付いている子どもが多いためであると考え。難語句には、生き物などに関する専門的な用語が挙げられている。(⑥)

(4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、子どもたちがそれぞれ要旨をとらえ、自分の考えを深めたり広げたりすることができるように、学習内容の設定や指導方法を次のように工夫することが大切であると考え。

ア 生き物が円柱形であるという筆者の主張の例に目を向けさせて読み取らせたり、単元の目標を設定させたりするために、**導入の段階で円柱形をしている生き物の写真を示し、なぜそのような形をしているのかという疑問をもたせたり、教師が作成した新聞のモデルを提示して見せたりする。**

イ 筆者の主張に対する自分の考えを広げたり深めたりさせるために、作成した新聞を基に自分の考えを交流させる際に、どうしてそのような考えをもったのかという理由や、相手の考えに対する感想を述べさせたり、自他の考えを比較させたりする。

ウ **学習の有用感や成就感を味わわせ、学びの総合化を図るために、本単元の学習が今後他教科等や日常生活のどのような場面で生かされるか話し合わせ、この学習で身に付いたことを振り返らせる。**

3 目 標

- (1) 自然界の生き物の特徴に関心をもち、筆者が読者に投げかける主張を明らかにしようとしながら読もうとすることができる。
 - (2) 生き物の形が円柱形になる理由を考えながら、内容のまとまりをとらえることができる。
 - (3) ア 筆者の考えを受けて、自分の考えを書くことができる。
- イ 文章構成を把握し、的確に読み取った内容から要旨をとらえることができる。

4 指導計画（全7時間）

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす①	理科で育てている植物も、茎の部分を思い出すと円柱形をしているよ。	1 <u>内容への興味の喚起と学習目標の設定</u> 『生き物は円柱形』を読んだ感想を友達と伝え合おう。 ・初発の感想 ・単元の目標設定	○ 教材への興味・関心を高めさせるために、写真で見せた生き物の形に注目させることで教材文に対する想像を広げさせ、教材文を通読した上で、共感・納得できることや疑問点などを自由に話し合わせる。（理科との関連）
しらべる①	要旨は、最初と最後の段落に多くかいてあるのだな。	2 <u>「見立てる」の読み取り</u> 『見立てる』で筆者は、どのようなことを伝えたかったのだろう。 ・説明文の構造 ・意味段落の要点 ・要旨のとらえ方 ・自分の考え	○ 新聞にまとめることの分かりやすさやについて考えさせるために、新聞のモデルを提示し、読み取った内容や筆者の主張を新聞に表すことを提案する。 ○ 要旨のとらえ方をつかませるために、「見立てる」の文章構成をとらえさせ、各意味段落の要点をまとめさせる。
ふかめる④	説明文の書かれ方が分かってきたぞ。	3～6 <u>「生き物は円柱形」の読み取り</u> 3 『生き物は円柱形』の文章構成をとらえ、学習計画を立てよう。 ・説明文の構造 ・各意味段落の役割 4 「生き物にとって円柱形は、どのような利点があるのだろう。」 ・「中1」・「中2」の要点 5 『はじめ』と『おわり』の部分には、どのようなことが書かれているのだろう。 ・「はじめ」・「おわり」の要点 6 『生き物は円柱形』で、筆者はどのようなことを伝えたかったのだろう。 ・要旨の把握 ・筆者の主張に対する自分の考え	○ 段落どうしのつながりに気を付けて意味段落まとまりをとらえさせるために、生き物が円柱形である因果関係をとらえさせたり、文末表現や接続語などに着目させたりし、根拠を明らかにして内容を的確に押さえさせる。 ○ 要旨をまとめさせるために、各意味段落におけるキーワードやキーセンテンスを話し合わせて明確にし、それを「生き物は円柱形新聞」に意味段落ごとにまとめさせる。
ふりかえる・いかす①	「円柱形」も、生き物の多様性の例の一つなんだな。	7 <u>学習のふり返り・評価</u> 「自分の考えを広げたり深めたりするにはどうすればいいのだろう。」（本時） ・自分の考えの交流 ・今後に生かせること	○ 本文の「はじめ」と「おわり」の叙述に十分着目させ、これまでまとめてきた意味段落の要点もふまえさせながら、多様な生き物の共通性のおもしろさや、生き物に対して敬う気持ちを抱いたりすることが大切であることをとらえさせる。
	くり返し使われている言葉には、筆者の主張が述べられていそうだな。		○ 要旨をまとめさせるために、各意味段落におけるキーワードやキーセンテンスを話し合わせて明確にし、それを「生き物は円柱形新聞」に意味段落ごとにまとめさせる。
	今までの要点を新聞にまとめてきたから、要旨がまとめでやすいぞ。		○ 本文の「はじめ」と「おわり」の叙述に十分着目させ、これまでまとめてきた意味段落の要点もふまえさせながら、多様な生き物の共通性のおもしろさや、生き物に対して敬う気持ちを抱いたりすることが大切であることをとらえさせる。
	日頃から、相手が何を伝えようとしているのか考えて文章を読むようにしていきたいな。		○ 形式的な要旨の理解にとどまらず、自分の言葉で要旨をまとめさせるために、要旨を新聞のリードとしてまとめさせる。
			○ 筆者の主張に対する自分の考えを広げたり深めたりさせるために、友達の考えと交流させ、比較や関係性を基に話し合わせ、新聞のコラム欄にまとめさせる。
			○ 学習してきたことを基に、筆者の考えについて自分の考えをまとめることができたかを振り返らせるために、学習の楽しさを数値化させ、その理由や考えたことを書かせる。（自己評価）
			○ 本単元の学習を今後に生かすために、どのような場面で役立てることができそうか話し合わせる。（他教科等、日常生活との関連）
		「生き物は円柱形」新聞の作成	
		要点を記事としてまとめ、リード文に要旨を書いた新聞を基にすると、筆者の考えがとらえやすくなり、自分の考えをもつことができた。	

5 本 時（7/7）

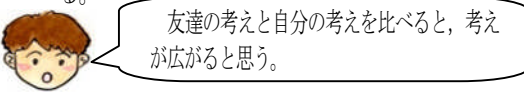
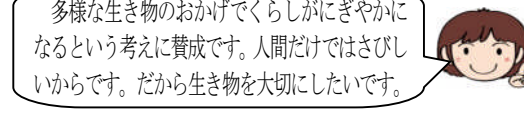
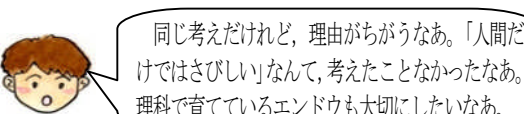
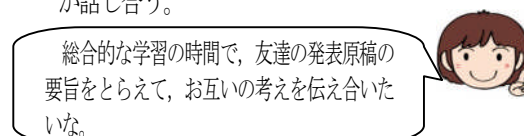
(1) 目 標

筆者の考えについての自分の考えを伝え合うことを通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

(2) 本時の展開に当たって

自分の考えを広げたり深めたりさせるために、**自分と友達のを考えを比較させることで気付いた共通点や相違点を話し合わせる。**

(3) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとめ	1 本時の学習課題を設定する。 (1) 生き物は円柱形新聞のリード文から考えたことのモデルを基に話し合う。 (2) 自分の考えを伝え合うことに、課題意識をもつ。 自分の考えを広げたり深めたりするにはどうすればよいのだろう。	(分) ↑ 5 ↓	○ 課題意識をもたせるために、「自分の考え」のモデルを示し、児童個人の考えと比較させたり関係付けたりさせる。 ○ 考えを広げたり深めたりすることのイメージをもたせるために、モデルと比較した際に出された意見を、「広がった考え」「深まった考え」に分類して板書し、学習課題を設定する。 ○ 見通しをもって主体的に学習させるために、学習の進め方を確認する。
しらべる	3 「生き物は円柱形」の要旨を基に考えたことを伝え合う。 (1) 自分の考えを広げたり深めたりする方法を考える。  (2) 考えを伝え合い、新たに考えが広がったり深まったりしたことを書き加える。  	↑ 5 ↓ 2 5 ↓	○ 考えを広げたり深めたりすることのできる伝え合いの方法を探らせるために、教師と児童とで伝え合いの例を示し、考えを伝えた後に相手に質問をしたり感想を言ったりする活動を加えることを確認する。 ㊦ なかなか伝え合いがうまくできない子どもたちには、担任と一緒に相手の考えの感想を考えたり、共通点や相違点がなかったか聞いたりする。 ○ 考えの広がりや深まりを実感させながら伝え合いを行わせるために、友達と伝え合った直後に新聞に書き加えさせ、次の相手には書き加えたことも合わせて伝えるようにさせる。 ○ 他教科等や日常生活との関連を図らせるために、伝え合いの中で生き物や自分の生活などについての考えを発表している児童を称賛し、価値付ける。
ふかめる	4 学習のまとめを行う。 自分と他者の考えと比べたり、関係のあることを見つけたりするとよい。	↑ 2 5 ↓	○ 学習をふり返らせるために、本時の学習でどのような伝え合いをしたらより考えが広がったり深まったりしたかを考えさせる。
ふりかえる・いかす	5 自己評価を行う。 (1) 本単元の学習をどのように役立てることができるか話し合う。  (2) 自己評価を行う。	↑ 1 0 ↓	○ 学習を今後に生かす意欲を高めるために、自分の考えの伝え合いをしている中で出てきた他教科等との関連や、新聞作りを通して身に付いてきた要旨のとらえ方などを想起させる。 ○ 学習したことを振り返らせるために、楽しさを数値化させ、その理由と今日の学習の感想を記述式で書かせる。